

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成21年中の火災は、出火件数 2,245 件、損害額 4,591,340 千円、死者数 88 人、建物焼損床面積 45,276 m²、建物焼損表面積 3,984 m²、林野焼損面積 492a、焼損棟数 1,677 棟、り災世帯数 1,090 世帯、り災人員 2,611 人となった。

(火災の状況)

区 分	平成 21 年	平成 20 年	対前年増減数	増減率
	①	②	③ = ① - ②	$\frac{③}{②} \times 100$ (%)
出火件数	2,245	2,437	△192	△7.9
建物火災	1,197	1,282	△85	△6.6
林野火災	56	96	△40	△41.7
車両火災	222	234	△12	△5.1
船舶火災	3	2	1	50.0
航空機火災	2	1	1	100.0
その他火災	765	822	△57	△6.9
焼損棟数	1,677	1,741	△64	△3.7
り災世帯数	1,090	1,179	△89	△7.5
り災人員	2,611	2,995	△384	△12.8
焼損面積				
建物床面積 (m ²)	45,276	50,753	△5,477	△10.8
建物表面積 (m ²)	3,984	7,279	△3,295	△45.3
林野 (a)	492	1,897	△1,405	△74.1
損害額 (千円)	4,591,340	6,160,443	△1,569,103	△25.5
死者 (人)	88	84	4	4.8
負傷者 (人)	354	410	△56	△13.7

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成21年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数 6.2 件、損害額 12,579 千円、死者数 0.24 人、建物焼損床面積 124.0 m²、建物焼損表面積 10.9 m²、林野焼損面積 1.3 a、焼損棟数 4.6 棟、り災世帯数 3.0 世帯、り災人員 7.2 人である。

2. 出火件数

(1) 総出火件数は、2,245 件で前年と比べて 192 件減少している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成 21 年	2,245 件 (100.0%)	1,197 件 (53.3%)	56 件 (2.5%)	222 件 (9.9%)	3 件 (0.1%)	2 件 (0.1%)	765 件 (34.1%)
平成 20 年	2,437 件 (100.0%)	1,282 件 (52.6%)	96 件 (3.9%)	234 件 (9.6%)	2 件 (0.1%)	1 件 (0.0%)	822 件 (33.7%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(2) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、3月が261件と最も多く、2月255件、1月240件と続いている。

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均3.6件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は4,591,340千円で前年比1,569,103千円（△25.5%）減少した。また、県民1人当たりでみると742円（前年1,002円）、1日当たりでは12,579千円（前年16,878千円）、1件当たりでは2,045千円（前年2,528千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
2,245件 (100.0%)	541件 (24.1%)	203件 (9.0%)	228件 (10.2%)	125件 (5.6%)	81件 (3.6%)	1,067件 (47.5%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は88人、負傷者は354人で前年に比べて死者は4人（4.8%）の増となり、負傷者は56人（△13.7%）の減となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災が死者61人、負傷者310人でそれぞれ全体の69.3%、87.6%と大部分を占め、林野火災が死者0人、負傷者1人（0%、0.3%）、車両火災が死者8人、負傷者11人（9.1%、3.1%）、船舶火災が死者0人、負傷者0人（0%、0%）、航空機火災が死者2人、負傷者0人（2.3%、0%）、その他の火災が死者17人、負傷者32人（19.3%、9.0%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると1月、3月が15人と最も多く、次いで2月が13人、4月が12人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の5割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	4	2	4	10	18	16	34	0
割合	4.5%	2.3%	4.5%	11.4%	20.5%	18.2%	38.6%	0.0%

(5) 死因

死者を死因別にみると火傷24人（27.3%）、自殺24人（27.3%）、一酸化炭素中毒・窒息25人（28.4%）、打撲・骨折2人（2.3%）その他・不明13人（14.8%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,197 (△6.6%)	4,412,917 (△6.3%)	床面積 45,276 m ² (△10.8%) 表面積 3,984 m ² (△45.3%)	1,677 (△3.7%)	1,090 (△7.5%)	2,611 (△12.8%)
林 野	56 (△41.7%)	1,052 (△67.6%)	492 a (74.1%)	—	—	—
車 両	222 (△5.1%)	131,066 (△33.6%)	—	—	—	—
船 舶	3 (50.0%)	2148 (53600%)	—	—	—	—
航空機	2 (100.0%)	10,440 (△99.1%)	—	—	—	—
その他	765 (△6.9%)	32,601 (△42.4%)	—	—	—	—
(爆発)	4 (△60.0%)	1,116 (△51.1%)	—	—	—	—

() 内は対前年比

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

() 内の%は、小数点第2位で四捨五入のため、全ての合計が100%にならない場合があります。